

陳 情 文 書 表

(産業観光局)

受 理 番 号	2 7 5 1	受 理 年 月 日	令 和 7 年 2 月 12 日
件 名	住民の生活と調和した安全で快適な観光地の実現（右京区嵯峨鳥居本）		
要 旨	<p>現在、嵯峨鳥居本には、インバウンドでかなりの外国人観光客が来ている。京都市嵯峨鳥居本町並み保存館の来館者は、これまでは月平均1,000人程であったが、昨年11月の来館者数は3,500名であった。その人数が保存館に一つだけあるトイレを利用し、大変な状況であった。鳥居本で観光トイレに指定されているものは国道沿いの今井駐車場にしかない。また、愛宕念仏寺まで下水道が通っていないため、愛宕念仏寺のトイレはくみ取り式となっている。多い日は1日に1,000人を超える来場者があり、頻繁にくみ取りに来てもらっている。観光地の環境整備としてトイレは重要である。</p> <p>ごみ問題にも頭を悩ませている。愛宕念仏寺、町並み保存館や観光トイレを提供している今井駐車場の汚物入れには、大量のごみが捨てられている。市のごみ箱は清滝街道には愛宕念仏寺前にあるものだけで、許容量を超えている。バスを降りる側にごみ箱がないため、ごみが寺の中や周辺に散乱している。ごみ箱の増設が必要である。</p> <p>また、地域としてバスの問題にも取り組んできたが、なかなかアクセスが改善されない状況である。愛宕寺バス停前で大勢の観光客が並び、満員で積残しが起きている。鳥居本では市バスもなく、京都バスも京都駅までは朝に2本あるのみである。日曜日は1本もない。観光客も住民も困っている。今、混雑対策として嵯峨エリアへの誘導が進められているが、交通アクセスの改善を強く求める。</p> <p>嵯峨・嵐山地域へのピーク時の観光客は2万6,000人と想定され、大規模災害時には観光客の安全を確保する必要がある。観光客や帰宅困難者が一時的に避難する緊急避難広場は、嵯峨・嵐山地域には9か所あるが、清涼寺より北にはない。嵯峨鳥居本の帰宅困難者対策についての検討を求める。嵯峨野保勝会としても協力体制について話し合っていく。</p> <p>多くの方々に、京都で3番目の重要伝統的建造物群保存地区である嵯峨鳥居本の美しい町並み、歴史を感じていただきたいと切に願っている。</p> <p>ついては、安全で快適な観光地、住民の生活と調和した嵯峨鳥居本の実現に向けて、以下のことを願う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 観光地としてのトイレ環境の整備、防災の観点からも愛宕念仏寺まで下水道管路を延長すること。 2 景観に配慮した市のごみ箱を、愛宕念仏寺、町並み保存館、今井駐車場又はバス停に設置すること。 3 バスの運行ダイヤを見直し・改善すること。 4 嵯峨鳥居本の帰宅困難者対策について、京都市との懇談の場を設けること。 		
陳 情 者			
回 付 委 員 会	産業交通水道委員会		